

2010/12/3 速水 豊

21世紀文明研究セミナー2010

展覧会見学とレクチャー

ザ・コレクション・ヴィンタートゥール

1. 美術館における特別展

コレクション展と特別展

特別展の意義

日本の美術館事情

2. ザ・コレクション・ヴィンタートゥール

第1章 フランス近代Ⅰ：ドラクロワから印象派まで

第2章 フランス近代Ⅱ：印象派以後の時代

第3章 ドイツとスイスの近代絵画

第4章 ナビ派から20世紀へ

第5章 ヴァロトンとスイスの具象絵画

第6章 20世紀Ⅰ：表現主義的傾向

第7章 20世紀Ⅱ：キュビズムから抽象へ

第8章 20世紀Ⅲ：素朴派から新たなリアリズムへ

特別展

写真家 中山岩太「私は美しいものが好きだ。」
レトロ・モダン 神戸
Nakayama Iwata Retrospective

4月17日(土)～5月30日(日)

本展では、戦前の神戸と芦屋を拠点に、構成主義的な写真から肖像写真や広告写真に至るまで多大なる功績を残した、日本を代表する写真家、中山岩太 (1895-1949) を、ニュープリントとヴィンテージプリントとの比較展示による第1部と、戦前のレトロ神戸を紹介する第2部とで振り返ります。



《長い髪の女》1933年

美しき挑発 レンピッカ展
一本能に生きた伝説の画家
Tamara de Lempicka and Her Time

5月18日(火)～7月25日(日)
※本展はギャラリー棟で開催します。本展では夜間開館はいたしません。

ポーランド出身の女性画家タマラ・レンピッカ (1898-1980) は、1920年代のバウハウス運動を始め、モード雑誌から抜け出したかのようなモダンな肖像画で人気を集めました。本展は、日本初公開の作品約30点を含む約90点の作品と資料でレンピッカの魅力に迫ります。



《緑の服の女》1930年 ポンビドーセンター蔵 ©2010 Tamara Art Heritage Licensed by MIMI Photo Collection Centre. Pompidou Liszt PHM/ Droits réservés/distributed by DNP/Partcom/ ADAGP & SPCA



岸田劉生《麗子立像(麗子立像)》1923年 神奈川県立近代美術館

麗子登場! 一名画100年・美の競演
神奈川県立近代美術館×兵庫県立美術館
REIKO and 100 Years of Japanese Modern Art

6月15日(火)～7月19日(月・祝)

岸田劉生《麗子立像(麗子立像)》(1923年)は、数ある「麗子像」の中でも名作として知られています。この至高の作品をはじめとして、神奈川県立近代美術館から一挙55点が兵庫県立美術館のコレクションと競演します。名品や知られざる逸品などを通して日本近代美術の流れをたどります。

特別協力 神奈川県立近代美術館

水木しげる・妖怪図鑑
Mizuki Shigeru: Illustrations of YOKAI

7月31日(土)～10月3日(日)

漫画家・水木しげるの画業60周年を記念する本展は、巨匠が描き続けた妖怪の世界を原画やブロンズ像などで総合的に紹介すると同時に、過去の美術作品を併せて展示することで、私たちの想像力を無限に刺激し続ける妖怪という存在に考察を加えます。



《妖怪大決戦》1986年 ©水木プロダクション

ザ・コレクション・ヴィンタートゥール
スイス発 知られざるヨーロッパ・モダンの殿堂
Masterpieces from the Collection of the Kunstmuseum Winterthur

10月21日(木)～12月26日(日)

スイス、ヴィンタートゥール美術館のコレクションから、ゴッホ、ルノワール、ピカソ、ルソーらの名品に加え、ホルダーやジャコメッティなど、スイスおよびドイツ美術の作品も並べ、近代美術のダイナミックな展開を紹介します。作品90点はすべて日本初公開。



フィンセント・ファン・ゴッホ 《郵便配達人ジョゼフ・ルーラン》1888年

森村泰昌
なにものかへのレクイエム 戦場の頂上の芸術
MORIMURA Yasumasa: A Requiem: Art on Top of the Battlefield

2011年1月18日(火)～4月10日(日)

美術史上の名画や映画女優に自らが扮するセルフ・ポートレイトの写真作品で知られる美術家、森村泰昌 (1951-)。20世紀の歴史と男たちをテーマとする話題の新作シリーズ「なにものかへのレクイエム」を完全版で通覧する個展を開催します。ほぼ全ての作品が関西初公開です。



《海の幸・戦場の頂上の旗》2010年 (映像作品)より

コレクション展(常設展)

コレクション展Ⅰ 3月27日(土)～7月4日(日)

絵画の5つの部屋
Five Rooms for Contemporary Painting

特集展示は、山村コレクションを中心とする現代絵画。5つの章を設定して、様々な角度から現代絵画を紹介します。その章のひとつで、具体美術協会の代表的画家白髪一雄(1924-2008)の大作をまとめて展示します。



白髪一雄《貴帝》1963年

コレクション展Ⅱ 7月17日(土)～11月7日(日)

美術の中のかたち一手で見る造形
Form in Art—Touch and Sense the Piece
金氏徹平展
Kaneuji Teppi

毎年恒例の本展では、視覚優位になりがちな美術鑑賞のあり方を取り替えることを目指してきました。今回は、金氏徹平(1978-)の作品と企画構成による展示を予定しています。



金氏徹平《Teenage Fan Club #23》2009年 ©Kaneuji Teppi courtesy ShugoArts

ブラジル日系人画家の系譜
—赤川コレクション—
Japanese Brazilian Artists from the Akagawa collection

日伯交流100周年を記念してサンパウロ在住の日系二世リカルド・タケシ・赤川氏からブラジル日系人画家の作品65点が当館に寄贈されました。本展では、戦前移民の第一世代から現代美術のフィールドで活躍する世代まで、ブラジル人社会の中での日系人画家の歩みをたどります。

新収蔵品紹介
New Acquisitions

平成21年度、新たにコレクションに加わった作品を紹介します。



Oscar Oiwa《Meet Market》2004年

コレクション展Ⅲ 11月20日(土)～2011年3月13日(日)

森村泰昌の小宇宙/或る美術蒐集家のコレクション
Microcosm of MORIMURA Yasumasa

コレクター大村邦男氏の旧蔵で、2006年度に当館所蔵品となった森村作品72点を一挙に公開します。個人コレクションならではの魅力にあふれた作品群により、ひと味違った森村ワールドをお楽しみください。なお、所蔵品を代表する名作によるコレクション名品選を併せて開催します。



森村泰昌《肖像(九つの顔) 冒作》1989-98年

2010県展

8月7日(土)～21日(土)
会場 原田の森ギャラリー
兵庫県下で美術制作に励む方々の発表の場として続いてきた公募展です。会場は原田の森ギャラリーです。

入賞作品展
8月24日(火)～29日(日)
会場 当館ギャラリー

コレクション展(常設展)
当館では、前身である近代美術館時代から約40年にわたり、国内外の彫刻、版画とともに兵庫県にゆかりのある作家を中心に、日本の近現代美術作品を収集してきました。「美術に親しむ」ことをテーマに3期に分けて、毎回約200点を収蔵作品の中から紹介します。美術を見ることを通じて楽しい時間をお過ごしください。

小企画
時代背景や傾向を見つめ、美術の役割を考える、学芸員の企画による当館独自の展示です。

所蔵作品から回顧展やテーマ性をもった展示を企画し、特徴ある作家や作品を重点的に紹介します。
※ 展覧会の内容、名称、会期は都合により変更することがあります。